



聖心

カトリック聖心教会

豊田市聖心町 4-44-13

発行 2025 年 8 月

126 号
(抜粋)

聖心教会の皆さん、残暑お見舞い申し上げます！！ 聖母の被昇天おめでとうございます。

エルネスト 島袋幹男 主任司祭

今年も暑い夏ですごしているみなさんの健康はいかがでしょう。教会では今年いろいろのことで皆さんとともに歩んでいます。去年の終わりに聖年が始まり、希望の巡礼者で名古屋教区では五つの県（愛知、岐阜、福井、石川、富山）の小教区の巡礼をお勧めしています。大勢の信者たちが、今年も能登半島を訪問し、祈りながら巡礼続けています。

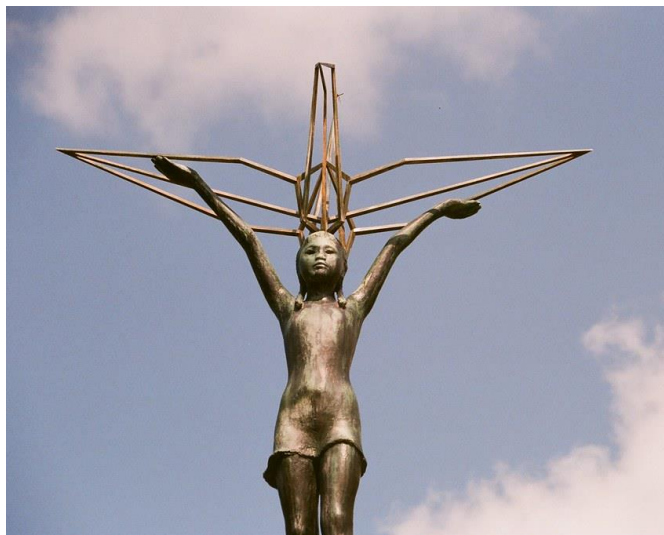
今年、教皇フランシスコが亡くなられて 新しい教皇レオ十四世になりました。アメリカ生まれの聖アグスチヌスの枢機卿。長い間、南米ペルーで宣教者、司教として働いてきました。

日本では今年、第二次世界大戦が終わって、80 年になりました。平和を願っている世界では、戦争を 21 世紀も続けています。日本カトリック教会は 8 月 6 日から 15 日まで平和旬間、世界平和のために祈り続けています。今年も聖母マリアの被昇天の祭日に平和のために希望の巡礼者として、キリストの平和を願いましょう。

◆聖母被昇天について◆

「最後に、現在のいかなる汚れにも染まらずに守られていた汚れなき処女は、地上生活の道程を終えて肉体も靈魂ともども天の栄光に引き上げられ、そして主から、全てのものの女王として高められました。それは、主たる者の主であり、罪と死の征服者である自分の子に、マリアがよりよく似たものとなるためでした。」聖マリアは、天に上げられることによって御子の復活に特別な仕方であずかり、他のキリスト者の復活を先取りされました。

『ああ、神の御母、あなたは御子を宿されたときには処女性を失わず、最後の眠りの時にはこの世をお見捨てになりませんでした。生ける神を お産みになったあなたは命の泉に合流し、その祈りによって私たちの靈魂を死から解放されます。』



ー『エンブリオ』って知っていますか？ー

『エンブリオ』というのは、お母さんのお腹の中にいる8週間までの赤ちゃんのことです。そのお腹の赤ちゃんの重さが日本の1円玉の重さと同じ1グラムなのだそうです。そこでエンブリオの赤ちゃんの『エン』と1円の『円』を重ね合わせて『円ブリオ』としました。この1グラムの赤ちゃんは、お母さんのお腹の中で、一生懸命大きくなっていきます。

1982年、聖マザー・テレサが『胎児の命を守る生命尊重に関する講演』をしに再来日されたとき、「日本は豊かで美しい国です。でも、まだ生まれない子のいのちを粗末にしている国はとても貧しい国です。子どもは神様からの一番の贈り物です。そのことを忘れないでください。」と言われました。

この言葉に立ち上がった若い女性や母親たち、一般市民、医療や福祉に従事している方たちが、お腹の赤ちゃんのいのちを大切にして、平和な社会を作ろうと『円ブリオ基金』というのができました。「日本の国の一人一人が、小さなことに愛をこめて1円を差し出してくれたなら、1億円になる」、「生まれることができない赤ちゃんが減っていく」という発想です。

それに先立って、『生命尊重ニュース』という小冊子が発行されましたが、多くの賛同者が手に取って下さり、少しずつ広がって、阪神・淡路大震災、東日本大震災、能登半島地震の時にも、緊急援助をすることができました。これまで、『円ブリオ基金』で誕生した赤ちゃんの数は、2025年6月15日現在で、1,107人になりました。ご協力下さった皆さま、ありがとうございました。

日本では昔、お母さんのお腹から赤ちゃんが生まれた時が、命の始まりと伝えられていました。でも、現代の医学・科学の進歩は目覚ましく、時の教皇パウロ6世は、回勅で「未だ人間の姿はなくても、将来人間になるものは、すでに人間である」と言われました。そしてそれは、なかなか多くの人たち(聖職者を含む)に受け入れることが難しかったけれども、時を経て、今、試金石のようになっていると聞きます。



ここ聖心教会では15年ほど前に、Sr.アルマが、主任司祭の快諾を得て、愛知小さないのちを応援する会として、過去の『生命尊重ニュース』を読んでいただくことから始めて、少しずつ輪が広がり、5年ほど前には、豊田市駅前での募金活動を行いました。現在は、主任神父様の賛同を得て、第5日曜日のミサ後に、聖霊修道院を会場として、1時間ほどの学習会・分かち合いの時を持っております。

どなたでも、興味のある方は、ご参加ください。

案内人： 聖霊会 Sr.小山

協力者： 信徒 大山妙(石川いのちの会)